

# 令和5年度 長野県農業大学校 評価表

評価 A: 目標を上回った B: ほぼ目標どおりできた C: 目標を下回った

## 1 学校教育目標

内 容	R5評価
理論と実技を同時に学ぶ実践型の教育により農業技術の高度化、経営の専門化に対応する知識、技術を習得させるとともに、自ら目標やテーマを定めて行う模擬経営・プロジェクト学習並びに寮生活等により他者との協調、自己の確立等の社会性を涵養し、次代の農業・農村を担う優れた人材の養成を目指す。	B

## 2 重点目標

内 容	R5評価
学生の学習意欲の向上に向けて授業内容の充実・改善及び職員の教育力の向上を図るとともに、関係機関等と連携して学生の希望に応じたきめ細かな進路指導により就農率向上に努める。	B

### 3 当該年度の評価項目等

(1) 共通項目(総合農学科、実科・研究科)

対象	評価項目	評価の観点	達成状況		R5評価																				
			成果(○)と課題(●)	改善策(■)																					
学習指導	授業実習内容の充実を図る	<b>授業改善に向けた取り組み</b> ○ 授業科目の見直しにより実習の時間を十分に確保できたか。 ○ 学生が興味や関心を持ちわかりやすい授業を行うための、職員の教育力向上研修を計画的に設けることができたか。 ○ 国、県が開催する研修会に参加することができたか。その研修内容を共有することができたか。 ○ ねらい、展開、見とどけの観点で授業を行うとともに実物やパワーポイント等を用いたわかりやすい授業を行ったか。 ○ 中間テスト等による学生の理解度の把握や学生への授業アンケートの実施(2回)と、結果を踏まえた授業の改善ができたか。 ○ 実習について、開始時に作業の目的や内容を十分に説明し理解させたか。 ○ 学生の授業、進路、寮生活などに関する要望を面談などにより随時把握し、学習内容や進路指導の参考としたか。	○ 学科目の変更等により実習の時間を確保できた。 ● 新型コロナウイルス感染拡大防止のための休講により、年度末の授業が過密になった。 ○ 実物やパワーポイントを活用し、わかりやすい授業の実施に努めるとともに、一部総合農学科の授業についてリモートで実科・研究科と共有を図った。 ○ 授業アンケートを実施し、授業の改善点等確認をし改善を図った。 ○ 職員研修を職員会議等に併せ3回開催した。 ○ 国・県等が主催する研修会に参加し、職員内で共有した。 ○ 学生と個人面談を2回以上行い、その情報を職員会議等で共有し、生活面・学習面の把握や個々の状況に合わせた進路指導を行った。	■ 緊急時の緩衝となる実習時間の時期を年度後半に再配分する。	B																				
			<table border="1" style="margin: auto; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th colspan="2">充足率(%)</th> </tr> <tr> <th>R5</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3観点による授業</td> <td style="text-align: center;">100</td> <td style="text-align: center;">100</td> </tr> <tr> <td>実物を用いた授業</td> <td style="text-align: center;">89</td> <td style="text-align: center;">87</td> </tr> <tr> <td>パワーポイントを用いた授業</td> <td style="text-align: center;">64</td> <td style="text-align: center;">62</td> </tr> <tr> <td>中間テストを用いた授業</td> <td style="text-align: center;">38</td> <td style="text-align: center;">32</td> </tr> <tr> <td>その他の取組</td> <td style="text-align: center;">87</td> <td style="text-align: center;">87</td> </tr> </tbody> </table>	項目	充足率(%)		R5	R4	3観点による授業	100	100	実物を用いた授業	89	87	パワーポイントを用いた授業	64	62	中間テストを用いた授業	38	32	その他の取組	87	87		
項目	充足率(%)																								
	R5	R4																							
3観点による授業	100	100																							
実物を用いた授業	89	87																							
パワーポイントを用いた授業	64	62																							
中間テストを用いた授業	38	32																							
その他の取組	87	87																							

対象	評価項目	評価の観点	達成状況		R5 評価
			成果(○)と課題(●)	改善策(■)	
学習指導	授業実習内容の充実を図る	<b>新しい知識・技術への対応</b> ○ スマート農業に関する講義の充実と関連企業との連携強化ができたか。 ○ 「施設園芸ほ場モニタリングシステム」やタブレット端末等を活用した実践的なプロジェクト研究の支援ができたか。 ○ みどりの食料戦略に関する講義が実施できたか。 ○ 青年農業者、先進的農業経営体への視察研修や講義の拡充が図れたか。 ○ GAPや農場HACCPなど新しい国際規格の知識習得や、SDGsやエコマネジメントなどの農場経営における実践について講義、演習を実施したか。 ○ 「長野県農業を担う人材の教育支援協定」を活用した講義を行うとともに、県内農機メーカーとの連携を検討できたか。 ○ 関係試験場の開発した新技術や新品種について、現物を踏まえた適期での講義・実習が実施できたか。 ○ 農業機械の整備に関する授業が実施できたか。	○スマート農業について講義の充実のため関連企業(2社)等の協力を得て、現地での講義を開催した。 ○トマトや花きのハウスで「みどりクラウドシステム」を設置し、携帯端末から温度管理等を確認するなどの取り組みを行うことができた。 ○みどりの食糧戦略に関する講義を実施するとともに、みどりの学生チャレンジには4名が参加した。 ○大豆でのグローバルGAPを取得するとともに、SDGsを含めて特別公開講座の実施した。 ○県内外の青年農業者や先進的農業経営体、県外市場等での視察研修を充実させ実施できた。 ○各試験場で開発した新技術や新品種について実物を活用するなど講義・実習ができた。 ○農業機械Ⅱで1学年に機械整備の授業を実施するとともに、実践経営者コース2年は、機械修理についての授業を新たに実施した。	■スマート農業について、新たな業者との連携を計画したり、各試験場が行っているスマート農業について学ぶ場面を設定する。 ■県内外の先進的農業経営者のもとでの視察研修を積極的に行い、農業経営の学習機会を増やしていく。	A
学習指導	授業実習内容の充実を図る	<b>資格試験の受験者数と合格率の向上に向けた取り組み</b> ○ 資格・検定試験の必要性を理解させて受験者数のアップを図る。 ○ 合格率向上に向け、学生のレベルに応じた個別指導や繰り返しの事前学習、小テストを実施できたか。	●毒物劇物取扱者試験について、昨年よりも多い39名が受験し、13名合格した。合格率26%で昨年を下回った。 ○大型特殊(農耕車)、フォークリフト、車両系建設機械、けん引(農耕車限定)免許、家畜人工授精師の資格を受験者全員が取得できた。 ○けん引(農耕車限定)については校内で事前指導を行った。 ○過去問題の配布や教科書・問題集を利用した勉強時間を設け、合格率向上を図った。 ○資格取得の支援については積極的に取り組み、事前講習を行った。 ○農業簿記について講師以外の職員も個別にスキルアップを図り、学生のレベルに応じて個別指導を行った。	■農業簿記及び毒劇物合格率向上のため、意欲向上を図る呼びかけを強化する。	B
	効率的・計画的な農場利用で学習効果を高める	○ 実践経営者コース2年生の模擬経営実施のための農場や施設等の確保・調整ができたか。 ○ 計画的な作付により、年間通したほ場の有効活用が図られたか。 ○ 1年生は、必要な実習ができたか。また、現地体験実習に必要な基礎的知識、技術を習得させたか。 ○ 定期的な農場運営会議の打ち合わせに基づいて各専攻とも適期にほ場管理ができたか。	○3名が模擬経営実施し、そのためのハウスを松代と小諸に、果樹園(ブドウ、ナシ)を松代で確保し実施した。 ○ほ場の年間利用計画を作成し、有効活用を図った。 ○1年生については、ミニプロジェクトを実施するなど計画的な実習に努めるとともに、農場実習を活用した各作物の基礎知識、技術の習得、刈払い機の取り扱いなど農機具の使い方などを身につけさせ現地体験実習に臨んだ。 ○各専攻担当と打ち合わせを行いほ場の適期管理に努めた。	■客土や株の更新などほ場の計画的な整備を実施する。	B

対象	評価項目	評価の観点	達成状況		R5 評価
			成果(○)と課題(●)	改善策(■)	
進路指導	個々に適した進路選択、決定、実現を図るとともに、円滑な就農を推進する	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学生の進路の意向を聞き取り、その情報を職員間で共有できたか。</li> <li>○ 1年生は11月末を目途に将来の進路を決定し、年度末から活動するよう個別指導できたか。</li> <li>○ 2年生は12月末を目途に全員の就農及び就職先等が決定するよう指導できたか。</li> <li>○ 雇用就農に向け法人説明会への参加を促すなど法人との接点を多くし理解を深める指導ができたか。</li> <li>○ 進路・就農指導等に関し、早い時期から農業農村支援センターや市町村等の関係機関とも情報を共有し連携して対応できたか。</li> <li>○ 関係機関と連携し、学生の円滑な就農支援や卒業後のフォローアップに取り組めたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○1年生は入学直後に個別面談、11月に保護者を交えた三者面談を行い、個々学生に進路指導を行うとともに、その情報を職員会議等で共有し、適期指導を行ってきた。</li> <li>○2年生も、4月に個別面談の他必要に応じて3者面談を行い就農就職先の希望を把握し、職員間で共有するとともに個々の状況に合わせた支援を行い、1月末までに全員決定した。(就農率69.4%)</li> <li>○農業法人等合同説明会や授業・実習を通じ、就農への意識付けを行った。</li> <li>○就農を希望する学生については、地域の農業農村支援センター、市町村担当者と情報を共有するとともに就農計画認定の支援を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■農業法人等合同説明会の開催方法や授業との連携を検討し、効果的な説明会になるよう検討する。</li> </ul>	A
	社会的規範意識を高め、基本的な生活習慣の育成に努める	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学年担当者会議を定期的に行って教授間の情報共有を行い、関係機関とも連携し個別の状況に応じた支援ができたか。</li> <li>○ ホームルーム、交通安全・防犯・健康講座などを通じて、生命尊重や社会的ルールを守る意識を高めることができたか。</li> <li>○ 寮生活や自治会活動を通じて社会人としての意識を醸成する指導ができたか。</li> <li>○ 各学科ごとの状況に対応した指導ができたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教務会議の際、課題のある学生の情報共有を行った。</li> <li>○2週間に1度程の間隔でホームルームを開催し、交通安全教室、避難訓練や健康に関する講座を計画どおり実施し学生の意識向上に努めた。</li> </ul>		B
	自他の生命・人権を尊重する精神を養い、男女が共に支えあう豊かな心を育成する	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 寮生活での活動を通じ、先輩と後輩の関係を学び、他人を尊敬し思いやる心を育てることができたか。</li> <li>○ 1・2年生共通の実習や寮自治会活動での交流事業等により、各コース間および学年間の交流が図られたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○寮生活における生活指導の他、社会組織活動としての自治会活動に必要な報告、検討などを指導するとともに、現地体験実習前の社会常識の指導等を行い、社会人として備えるべきことを指導を行ってきた。</li> <li>○農場実習や体育祭、自治会活動等での交流は行われたが、もう少し学年間の交流が必要であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■体育行事や農大祭を通じてより学年間の交流が更に図れるよう指導する。</li> </ul>	B
学校運営	農業機械や施設機器の充実と適正な管理	<b>農業機械の充実</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 農場実習等の農作業に必要な機械と設備の修繕や更新は計画的に行っているか。</li> <li>○ 圃場管理に支障が出ないよう、十分な準備とメンテナンス、マニュアルや画像による技能の伝承を進められたか。</li> <li>○ 導入したスマート農業機器と設備の効率的利用ができたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○使用年数が大きく経過している施設、農業機械が多い中で、予算の制約もあり、優先順位を付けて計画的に修繕・更新を行った。</li> <li>○機械の操作方法を、必要に応じて機械担当者から特別教授等に指導を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■大型機械等については更新計画を作成し、計画的な更新に努める。</li> </ul>	B
	機械の適正な管理	<b>機械の適正な管理</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 農業機械、施設及び機器の故障や修理情報が職員間で共有されるとともに、使用後の保守点検のルール化や使用簿への記入徹底などにより、適切な管理運営が行われているか。</li> <li>○ 適切な操作方法を習得させたうえで学生に機械利用させたか。また、複数指導体制を検討できたか。</li> <li>○ 修繕可能な機械類を見極め備品の有効活用がされたか。</li> <li>○ 使用できない機械の廃棄が行われたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○使用年数が大きく経過している施設、農業機械が多く、故障等トラブルの発生が多くなっており、故障等が放置されないよう機械担当や特別教授と情報共有を図り、修繕等を行ってきた。使用後の保守点検、使用簿の記入等は実施されており、適切に監視している。</li> <li>○学生の農業機械使用については、必要な講習等を受講させ、複数の指導体制の下安全使用を徹底している。また、動画を活用する等し機械整備を含めた授業の充実を図った。</li> <li>○予算の制約がある中で、対応可能な修繕やメンテナンスは学内で対応している。</li> </ul>		B
学校運営	学校用地や施設の適切な維持管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 実習棟、機械庫等は、定期整頓日の設定などにより整理整頓がなされているか。</li> <li>○ 定期清掃日の設定などにより、農場以外の学校用地や校舎等施設の維持管理が適切に行われたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○GGAPを大豆で認証取得したこともあり、大豆調整室、機械格納庫、資材保管施設等の清掃・洗浄や各種マニュアルを掲示するなど行うことができた。</li> <li>○農場内を定期的に草刈りや当番を設定し施設の清掃を行ったり、施設の自主点検を行い維持管理に努めた。</li> </ul>		B

対象	評価項目	評価の観点	達成状況		R5評価
			成果(○)と課題(●)	改善策(■)	
学校運営	学生募集のPRを更に充実する	<p>○ 学校案内、募集チラシを作成して配布し、県内外で農業大学校への関心を高めることができたか。</p> <p>○ サンデー見学会、オープンキャンパスおよび体験学習等を充実し、農業大学校への関心を高めることができたか。</p> <p>○ 高校訪問や進路指導担当教諭会議等を通じて農大のPRや情報収集ができたか。また農業高校以外の進路担当教諭にも十分周知できたか。</p> <p>○ 農業高校との一層の連携を推進するために、「農大・農高の連携会議」を開催し、農高生の体験入学等を実施できたか。</p> <p>○ 改革を進めている農大の教育内容や就農支援の様子を各専攻のブログ等で頻繁に発信できたか。</p> <p>○ 入試案内、行事等を計画的に紹介するとともに、授業や実習等の動画を載せるなど、積極的に大学校のPRを行うことができたか。</p>	<p>○学校案内2,500部、募集チラシ3,000部を作成し、県内全高校、県外実績高校及び関係機関へ配布・周知した。</p> <p>○サンデー見学会(13回)で29名、総合農学科のオープンキャンパス(2日)で97名、果樹実科・研究科のオープンキャンパスで4名、体験学習(1日)で5名の参加があり、本校の概要説明や校内の見学、個別相談などにより高校生や保護者にPRした。また、高校の進路相談会へも出席し生徒個別に対応した(18校、170名)。さらに今年度新たに、首都圏の高校生向け学生募集説明会を6月に銀座NAGANOで開催し、7月のオープンキャンパス参加へと繋げることができた。(説明会7名(4世帯)参加のうち2世帯が来校)</p> <p>○高校訪問では、実科研究科と連携し、県内の農業高校及び入学実績高校(49校)へ周知・情報収集を行った。また、11月、2月にフォローアップとして再度募集を図った</p> <p>○農業高校との連携では、5月に農業高校進路担当教諭会議を、6月と9月に農業大学校と農業高校の連携会議を開催し、校長及び進路担当教諭との意見交換や情報共有を図った。</p> <p>○授業の様子や学校行事等は、農大専用ホームページのブログに随時アップロードするとともに、学生自ら情報発信ができるようインスタグラムを新設した。また、入試案内等を県ホームページでプレスリリースしたほか、農業関係団体のホームページにも掲載してもらったなど、積極的にSNSを活用した。</p> <p>○BS朝日のTV番組において、本校の授業や学生寮の様子などが紹介され、メディアによる情報発信ができた。</p>	<p>■引き続き、高校生等の体験できる機会を充実するとともに、SNSを有効に活用しながら周知を図っていく。</p> <p>■体験入学の開催時期等について農業高校と調整する。</p>	A
	ホームページの充実を図る	<p>○ 広報委員会を定期的で開催するとともに、HPのあり方や新たな広報手段等が検討されたか。</p> <p>○ 学生の自治会活動のHPへの掲載を支援できたか。</p> <p>○ 改革を進めている農大の教育内容や就農支援の様子を各専攻のブログ等で頻繁に発信できたか。(再掲)</p> <p>○ 入試案内、行事等を計画的に紹介するとともに、授業や実習等の動画を載せるなど、積極的に大学校のPRを行うことができたか。(再掲)</p>	<p>○広報委員会を9月に開催し、前期の広報内容を振り返り、後半の広報計画、手法を検討した。</p> <p>○農大専用HPのブログでは、入試、オープンキャンパス、のうだい屋、農大祭等の行事に関する情報を積極的に発信し、農大をPRすることができた。</p> <p>○学生自治会でもインスタグラムによる発信を始めるなど、全学を上げて取り組んできた。</p>	<p>■農業大学校のHPに実科研究科を含めた掲載を行うなど更に充実を図る。</p>	B
	予算執行の適正化を図る	<p>○ 計画的な予算執行と無駄を無くすため、農場は専攻別に、管理運営は費目別に執行状況を管理し調整できたか。</p>	<p>○農場関連経費は費目別に予算執行状況を把握し、職員への情報提供及び執行時期等の調整を行い、計画的に予算執行を行うことができた。</p>		B

(2) 実践経営者コース

対象	評価項目	評価の観点	達成状況		R5 評価
			成果(○)と課題(●)	改善策(■)	
学習指導	授業実習の内容を充実を図る	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1年生における各論実習の充実と目的意識を持った農業経営体験実習をさせることができたか。</li> <li>○ 模擬経営の実践の中で経営分析させることで、経営力の向上ができたか。</li> <li>○ 希望する就農形態に合わせて模擬経営と長期農業経営体実習を適正に選択するとともに、就農後予想される課題の把握と対応策が検討できたか。</li> <li>○ 実践経営者コース設立10年を迎え、卒業生・在校生から意見集約をし見直しが見えたか。</li> </ul>	<p>1学年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各論実習は専攻職員と連携をとり実施できた。</li> <li>○農業経営体験実習は研修農家と連携をとり、就農時の品目の技術習得中心に取り組んだ。</li> </ul> <p>2学年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○模擬経営は就農時の希望品目に取り組み、経営分析や課題把握を行うことができた。</li> <li>○パソコンを使った農業簿記により、青色申告書の作成まで授業で行った。</li> <li>●模擬経営中に1名が体調を崩し十分な実習が行えなかった。</li> <li>○12月に卒業生と在校生との意見交換会を実施し、今後の授業実習内容や就農支援等への意見集約ができた。(卒業生の出席13名)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■学生の健康チェックを定期的に確認する等体調管理の徹底を行う。</li> </ul>	B
進路指導	個々に適した進路選択、決定、実現を図るとともに、円滑な就農を推進する	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 就農支援プログラムに基づき、早めに関係機関や研修先農家と連絡を取りあい就農形態に応じたきめ細かな個別就農支援ができたか。</li> <li>○ 職員間の連携により、授業計画、授業管理などのコース運営と就農支援が一体的に実施できたか。</li> <li>○ 現役農業経営者にアフターフォローを依頼する等、卒業生のフォローアップが充実できたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○就農支援プログラムに基づき就農までの支援を行った。</li> </ul> <p>1学年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○3名については、地元の農業支援センター、市町村等との顔合わせ会を実施した。</li> <li>○就農地を迷っていた1名も、就農地等が決まったので、今年度中に地元の農業支援センター、市町村等との顔合わせ会を実施する予定。</li> </ul> <p>2学年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○関係機関や研修先農家の協力の下、雇用研修2名、法人就農1名、独立自営1名となった。</li> <li>○12月に卒業生と在校生との意見交換会を実施した。(卒業生の出席13名)(再掲)</li> </ul>		B
学校運営	学生募集のPRを更に充実する	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 就農に向けた相談会、コース説明会等の通年実施や農業高校への働きかけ等によりコースの内容等をアピールし、効果的な募集活動ができたか。</li> <li>○ 独自の募集チラシを作成して関係機関や団体に配布し、募集の周知ができたか。</li> <li>○ 市町村やJA等の関係機関、団体と連携を密にし、人材の掘り起こしができたか。</li> <li>○ 専用ブログやメディア等様々なPR媒体の活用等により、授業内容や卒業生の営農状況を紹介するなど、効果的なPRができたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○県内外の就農相談会等でコースのPRを行った。</li> <li>○農業高校でのガイダンスで実家が農家の学生に対して積極的にコースをPRを実施した。</li> <li>○信州の果樹・そ菜に各1回、うまくだニュース1回、信濃毎日新聞に2回学生募集の記事を掲載した。</li> <li>○募集チラシを作成し、市町村、JAや関係団体も出席する県下10広域の就農促進会議等で配布するなど周知を図った。</li> <li>○全国放送のテレビ放映により、授業や実習の様子を紹介し、全国へのPRができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■出願者数の確保のための新しいPR方法の検討</li> </ul>	B

(3) 農業経営コース

対象	評価項目	評価の観点	達成状況		R5 評価
			成果(○)と課題(●)	改善策(■)	
学習指導	授業実習内容を充実を図る	<p>○ プロジェクトは、学生の能力に応じて経営管理力を習得させるよう、全学生が経済性の検討を充実するとともに、労働時間の考察や検証が取り入れられたか。</p> <p>○ 1年生によるプロジェクト巡回は、事前指導により質疑応答など活発に実施できたか。</p> <p>○ ゼミナールによる先進農家視察が実施できたか。</p> <p>○ マーケティング手法の習得を目的として、のうだい屋(5回)と農大祭が実施できたか。また、農大祭では、1、2年生間で販売・運営方法の伝承や販売物の確保ができたか。</p> <p>○ 現地体験実習の受け入れ方法等の検討を行えたか。</p>	<p>○ 農経2年38名がプロジェクト課題を実践し、プロジェクト課題を通して経営管理力を習得することができた。</p> <p>● 経済性の検討や労働時間の考察や検証は一部の学生のみとなってしまった。</p> <p>○ 8月から10月に計5回のうだい屋を開催、11月に農大祭を開催した。1・2年生が協力して販売を行い、その手法等を継承することができた。</p> <p>○ 現地体験実習については、受入農家との意見交換会を行い、課題を整理し、次年度の実施方法を検討した(12月)。</p>	<p>■ プロジェクトの課題設定を行う過程で経済性や労働時間などの経営管理を考えさせる必要がある。</p> <p>■ 現地体験実習については、来年度、農業農村支援センターの事務負担等の軽減と受入農家から提案のあった実施方法を一部で取り入れて試行する。</p>	B
進路指導	個々に適した進路選択、決定、実現を図るとともに、円滑な就農を推進する	<p>○ 就農への意識づけに向け、農業経営演習を充実できたか。</p> <p>○ 就農支援プログラム等に基づく様々な就農形態に応じた個別、計画的支援ができたか。</p> <p>○ 卒業生を就農地の現地機関に確実につなげることができたか。</p> <p>○ 農業法人合同説明会等を開催するとともに、インターンシップの実施により就農意欲の向上を図れたか(就農率40%以上)。</p>	<p>○ 就農支援について、先輩農業者等による講義だけではなく、上田地域で新規就農した卒業生を視察する現地演習を取り入れるなど充実を図った。</p> <p>○ 農業法人への就農者については、3月に現地機関に情報提供を行う。</p> <p>○ 農業法人等合同説明会を開催し、昨年を上回る20法人の参加があった。また、農業経営コース2年生の農業法人等への就職も、昨年を上回る17名(45.9%)となった。</p> <p>○ 長野県農業法人就業フェアへの参加を呼びかけ1年4名が参加をした。</p> <p>○ WEBによる農業法人説明会を開催し、8法人に対し、5人の学生が参加した。</p> <p>○ 1年2名がインターンシップを実施した。</p>		A
学校運営	学生募集のPRを更に充実する	<p>○ サンデー見学会、オープンキャンパスおよび体験学習等を充実し、農業大学校への関心を高めることができたか(再掲)。</p> <p>○ 高校訪問や進路指導担当教諭会議等を通じて農大のPRや情報収集ができたか。また農業高校以外の進路担当教諭にも十分周知できたか(再掲)(志願倍率1.5倍以上)。</p>	<p>○ サンデー見学会(13回)で29名、総合農学科のオープンキャンパス(2日)で97名、果樹実科・研究科のオープンキャンパスで4名、体験学習(1日)で5名の参加があり、本校の概要説明や校内の見学、個別相談などにより高校生や保護者にPRした。また、高校の進路相談会へも出席し生徒個別に対応した(18校、170名)。さらに今年度新たに、首都圏の高校生向け学生募集説明会を6月に銀座NAGANOで開催し、7月のオープンキャンパス参加へと繋げることができた。(説明会7名(4世帯)参加のうち2世帯が来校)(再掲)</p> <p>○ 高校訪問では、実科研究科と連携し、県内の農業高校及び入学実績高校(49校)へ周知・情報収集を行った。(再掲)</p> <p>○ 2月に追加募集を実施した。(志願倍率:R6入試0.90倍)</p>	<p>■ 引き続き、高校生等の体験できる機会を充実するとともに、SNSを有効に活用しながら周知を図っていく。(再掲)</p> <p>■ 体験入学の開催時期等について農業高校と調整する。(再掲)</p>	C